

Northern Aspects #02  
杉山留美子 光満ちる時



〈From All Thoughts Everywhere〉2002年 作家蔵

Northern Aspectsは、北海道美術に歴史や分野、表現傾向やモチーフなど様々なテーマを設定し、北海道作家を多角的な視点から紹介する展覧会シリーズです。第2回の作家として、杉山留美子をご紹介します。

杉山は、THE VISUAL TIME展やTODAYなど、70年代からの北海道の前衛的な美術運動に早くからたずさわり、現代表現を展開する北海道の代表的な作家として活躍しています。70年代は曼陀羅をテーマにした東洋的な抽象をくりひろげて注目され、その後、特に90年代にはいったからは、色面分析的な構成に移り、赤を基調とした画面から、青を主と

した色面のひろがる画面へと展開して活動してきました。

現在は、絵画のもつ空間そのものをテーマとして、幾層にも重なる色彩によって、「色彩が人間の思考や生理にもたらす作用」を追究することで、人間の知覚に働きかけるような画面を創りあげています。ことに最近の制作では、鮮明な複数の色彩がそれぞれ主張することなく、ゆるやかに重なり融けあうことで、静謐な光をはらんだような画面空間を生み出しています。さらに、手作業で塗り重ねる作業を無理なく均質に行きわたらせるため、矩形の小画面を単位として、それらを時に数十枚に及んで組み合わせて、大画



〈WORK 9911-1〉1999年 作家蔵

面に構成させる手法によって、さながら万華鏡のような空間を生み出しています。それは光の曼荼羅とでもいうべき空間でもあり、ひとたびここに立てば、観る者は光彩に囲まれながら瞑想の世界に誘われることでしょう。

今回の展覧会では、そうした曼陀羅の構想に端を発しながら、現在の色面による構成にいたるまでの、杉山の創造世界の軌跡をたどります。

※表紙の作品：〈HERE-NOW あるいは無碍光〉(部分)2007年 作家蔵